

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2993500020		
法人名	社会福祉法人 太陽の村		
事業所名	グループホーム 柳光		
所在地	奈良県吉野郡吉野町柳1395番1		
自己評価作成日	平成26年8月10日	評価結果市町村受理日	平成26年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成26年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で、家族のような関係作り、温かさややすらぎのあるところ、わがままが許されどんな事でも話ができる
 を職員一同の共通理解として取り組んでいる。「認知症に関する研修には、出来る限り参加し知識・技術の習得をめざし、将来的には、認知症に対する専門的な知識がなければケアに携われないユニットとしてのレベルを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、自然に恵まれた広い敷地に開所されています。玄関周辺には植栽され、訪問者を温かく迎えてくれる雰囲気があります。ホーム内はゆっくり寛げる広さがあり、利用者は自分のペース・リズムで特技を活かしながら穏かに生活されています。また、各所に自立支援への工夫が施され、安全への配慮も見られます。職員は、運営理念を認識し、利用者支援に努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に親しみある開かれた施設である事を目指し、業務の中で日々確認し合い、理解、実践出来るように取り組んでいます。	地域との結びつきを重視し、利用者の意思・尊厳を尊重した運営理念が作られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出の機会を徐々に増やし、地域の方との交流を少しずつ増やしている。又、施設行事に地域の方やボランティアの方に参加して頂き、自由な交流の場が作れるようにしている。	立地環境から、日常的な交流に希薄感がありますが、地域の行事への参加・外出時の挨拶等、ホームが孤立しない為の取り組みをされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ認知症の人の理解をして頂く具体的な支援方法は殆ど出来ていない、今後、地域の方へ、認知症についての文章を配布するなど理解や支援につながるよう取り組んでいく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月々の行事の報告や入居者の日頃の様子、施設の研修実施、事故の報告等を話し合い、又、入居者ご家族よりご意見を聞き頂き、サービスにつなげている。	行政・自治会代表等幅広いメンバーで構成された運営推進会議を設置し開催されています。会議では、運営上の様々な課題や問題点について意見交換し、改善に向けた取り組みの機会とされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加をして頂き、市町村担当者からの意見や当施設の取り組みの報告をしている。又、事故等の報告を速やかに行い、市町村との連携を図れるように取り組んでいる。	利用者の諸問題の相談や日常的な支援の様子を伝える等により連携強化に努められています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修に参加してもらい理解できる機会を設けている。施設内の施錠は出来る限りしない方向で模索している。日常の中で、身体拘束につながらないよう、言動一つにおいても注意し合える環境作りをしている。	鍵を掛ける事の弊害を理解されていますが、利用者の安全確保を第一に考え、正面玄関と内玄関は施錠されています。	ホームの外周りは、温もりが感じられますので、施錠によりその雰囲気損なわないよう、見守りの徹底や行動パターンの把握等で安全確保も図りながら改善に向けた取り組みを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を通し、虐待への理解の機会を設けている。定期的に職員・入所者にアンケートを実施し、虐待につながらないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する内容の研修や勉強会をする機会が持ていない事もあり、今後、学ぶ機会を持てるようにして行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文面や口頭による説明をしている。不安や疑問点があれば、理解していただけるように十分に説明し、安心してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設にご要望・ご意見・苦情等についてのご意見箱を設置し、ご家族等からの言葉を聞けるようにしている。又、ご要望等があった場合に会議など話し合いの場を設け、運営に反映出来るように取り組んでいる。	家族の訪問時に意見・要望等を聞き出し、寄せられた意見等は会議に諮り運営に反映させる取り組みをされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティング等で意見や提案する場を設け、そこで上がった内容をさらに責任者会議でアなし会える環境を作っている。	リーダー会議や責任者会議等で、運営に関わる事項について意見交換され、必要な事項は運営に反映するよう努められています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況に応じた給与水準を設け、人事考課にて対応している。面談を通じて、意見交換の出来る場もち、各職員の向上心の持てる働きかけを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	面談や人事考課を通じて、各職員の把握に努めている。又、職員のスキルアップやモチベーションを保つために内外研修への積極的な参加の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会を増やし、他施設の参加職員との交流やネットワーク作りにつなげている。又、他施設との交流を通じ、良いものを取り入れる姿勢を当施設では持ち、施設サービスの向上につながるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時にご本人やご家族の方からこれまでの生活歴を聞き取り、その生活歴の継続が出来る環境作りや、安心してもらえるように本人の訴えや気持の組み取りが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時にご家族の方の要望、どのような施設での暮らしを望んでいるのかを聞き取り、必要とされるサービスの提案に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人に生活歴を詳しく聞き、施設での暮らしに不安や混乱を引き起こす事が無いように他職種、サービス提供者と共に連携を図り、安心につながるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現在まで積み重ねてきた生活歴や経験を元に本人とサービス提供者が教える教えられるような同じ立場にあり、共にこれからの生活を積み重ねる関係作りを築く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と密に連絡を取り合う、又、施設行事(外出など)に本人と共にご家族が同行し、職員とご家族が協力し、共に本人を中心に楽しみ、同じ時間を過ごせる環境作りをする事で、ご家族との関係作りの構築をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族を通じて、馴染みの人への連絡を取って頂き、面会の機会を持てるようにしている。又、ご家族の協力で馴染みの場所への外出の機会を持てるようにしている。	家族の協力によって、地域に暮らす知人の訪問等があり、馴染みの人や場の関係継続の支援に努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別性を保ちながら、孤立を防げるように行事への参加やレクリエーションの参加を促して、入居者同士、協力し合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までに連絡等を受けていないが、本人やご家族が必要とされている場合には、相談に応じ、ケアの方向性など話し合いが出来る体制を設けられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、本人の些細な思いや言葉・行動などを汲み取り、安心して生活が送れるよう職員同士、ミーティングや普段の意見交換で情報の共有をし入居者の方の把握に努めている。	利用者との会話や利用中の言動等から希望・意向の把握に努め、サービスに反映する取り組みをされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活の中で、本人との些細な会話の中で知り得た、嗜好品や新たな生活歴を職員同士、ミーティングや普段の意見交換で情報の共有をし入居者の方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の中で、知り得た、本人の能力や行動・会話の中の現状を職員同士、ミーティングや普段の意見交換で情報の共有をし入居者の方の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の生活の中で、知り得た、本人の能力や行動・会話の中の現状を職員同士、ミーティングや普段の意見交換で情報の共有をし、ご家族との普段からの関係作りで得た情報やカンファレンスを踏まえ、介護計画に反映出来るように作成に努めている	介護計画の作成と適切な支援のための見直しの必要性を正しく理解し、関係者で適宜意見交換等をされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録と介護日誌により、他職種との情報の共有を行っている。又、伝達簿の活用やユニットミーティングで話し合った内容を介護計画に反映し、介護計画に添ったケアが実施出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他職種との意見交換を行い、柔軟な対応を状況に応じて行っていると共に、外部研修で学んだ事を取り入れ、ニーズに対応出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方に施設行事に参加して頂き、地域住民の方の協力を得て、安全に楽しんでいただけるような協力体制を取っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループ病院が、かかりつけ医として対応している。又、契約時に提携医療機関を説明しご理解いただいている。週に2回の回診の対応をしており、本人、ご家族の要望にも直ぐに対応できるように日頃から、医療との密な連絡協力体制を整えている。	かかりつけ医の受診は入居時に相談し、本人の希望を優先に支援されています。尚、定期的な往診があり、適切な医療の確保が図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護職と連携を取り、日誌や記録又は、直接個々の入居者の意見や情報交換の連絡、連携を行い入居者の状態に応じて協力医療機関への協力依頼の連絡を即座に行える対応をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループ病院が、かかりつけ医として対応しており、医療との密な連絡をする事で、医療機関との協力体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状態の変化の経過をご家族に説明し、主治医や関係者などにも相談の機会を持ち、終末期に対しての方針を共有出来る体制を取っている。	利用開始時に終末期への対応方針の説明をされています。尚、状態に変化がみられる都度、関係者で相談し希望に沿った対応をされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通して、急変時や事故発生時の応急手当の対応が出来るようにしている。又、ミーティングなどの際に、対応に不安がある場合の対処法を意見交換が出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管轄の消防署立会の元、避難訓練の実施を行っている。又、避難訓練実施の際に、地域住民・消防団に参加を呼びかけ、協力してもらえる体制を取っている。	年2回避難訓練を実施し、スプリンクラーも設置されています。また、訓練の際に地域住民等に参加を呼びかけておられます。	日頃から地域との連携を図り、さらに協力体制を築いていく事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の中で、言動一つひとつにおいて職員同士が注意し合える環境作りを作っている。	利用者の気持ちを大切に、一人ひとりに合わせた対応を心がけ、実践されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で、本人の思いや言葉・行動などを組み取り、安心して生活が送れるよう職員同士、ミーティングや普段の意見交換で情報の共有をし入居者の方の把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状は、職員の意識が、共同生活の中の個々の対応になりがちになってしまっている。その人らしい生活スタイルで、個々を中心とした支援の提供が出来るように、職員の意識改善の方法を模索しているところである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好み合わせた衣類調整の声かけや本人の希望に沿った、理美容が利用出来るように意見を尊重した支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房からの食事の提供になる為、お盆で各入居者の方に配膳しているのが現状である。盛り付けや配膳が入居者自ら出来るよう検討中である。又、栄養士より、入居者の方に対して、嗜好調査アンケートを実施しており、希望の食事の提供が出来るようにしている。	暮らしの中で食事は大きい楽しみの一つである事から、盛り付けや色彩等に工夫し提供されています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による食事摂取量の管理と月1回の体重測定の実施にて、栄養状態の把握をすると共に朝昼夕と食間に定期的な水分の補給と随時、希望時にすぐに提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に個々に応じて、口腔ケアの促しや介助を行い、口腔内の保清に努めている。又、嚥下状態や唾液の分泌を促すための食事前の口腔体操の実施をしている。月1回の歯科医の回診がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期時間のトイレ誘導の声掛けと希望時に随時トイレ誘導を行っている。少しでも起立が出来るようであれば、おむつの使用を極力避け、夜間帯のみの使用で対応している。	排泄パターンのチェック・記録と行動観察により、トイレ誘導を行い、自立排泄への支援をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食事量の確認を行い、腸の動きを少しでも活発になるよう運動を兼ねたりハビリ体操を毎日実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の方の状態に合わせた入浴方法で対応しているが、個々の希望に合わせた入浴の時間帯にはなっておらず、現状は、施設側の設定曜日に入浴していただいている。	入浴は、週3回を基本に曜日を決めて支援されています。	今後は、本人の希望に沿った入浴支援の工夫・検討を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入居者の状態に沿った、就寝や起床を極力合わせている。入居者の方に合わせた消灯を行い、不安の解消に努めている。安眠につながるよう温度調整や明かりの調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬の内容を個々のファイルで管理し、理解できるようにしている。又、看護との連携を図り、薬の変更など連絡を密にとれるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族の方から今までの生活歴や嗜好など聞き取った事を普段の生活の中で、役割を持ってして頂いたり、楽しんで頂けるように状況に応じて対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節に合わせた行事で、外出の機会を設けている。施設行事(外出など)に本人と共にご家族が同行し、職員とご家族が協力し、入居者の方を中心に楽しみ、同じ時間を過ごせる環境作りを支援している。	外気に触れる事の効果を理解され、施設行事に参加する等、外出機会の確保に努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活で、金銭の使う機会が無く入居者の方本人が所持する事が現状ない状況である。自身でお金を所持する事で安心につながる事もあり、今後、金銭の所持について検討する。又、外出の機会に買い物が出る内容の行事も実施出来るように努める。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の出来る入居者の方には、電話の利用が出来るようにしている。必要に応じて、手紙等の代筆や投函等も行えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心してくつろげる空間作りの検討をしているが、現状は実施出来ていない。落ち着いて過ごして頂ける空間作りを入居者の方と職員が話し合って作り上げていく事を検討している。	共用空間は、整理・整頓が行き届き、また、換気・採光の工夫や季節感を大切にしている場所となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろげる住空間作りがまだ出来ていない状況である。安心して、過ごせる空間作りを早急に実施出来るように検討をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	面談時に今までに使われてきたタンスや嗜好品を持参していただく説明を行っている。、使い慣れたものを近くに置く事で、安心感を持って過ごして頂けるように提案をしている。	利用者の使い慣れた家具や好みの品が持ち込まれ、安心して過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面までの通路には障害物が無い様に配慮している。住空間の環境整備が十分に出来ない事もあり、安全で自立を促せるような空間作りが出来るよう検討している。		